

令和5年度

### 吉野川市立鴨島第一中学校 「学力向上実行プラン」

#### 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒の主体的活動を促進し、目標達成の達成感を実感させる指導方法の工夫
- 生徒が自己の課題に向き合い、適切で具体的な行動目標を設定したり、協働したりできる授業の実践

#### 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
田中 直美	学校長:住友 久之 教頭:松永 貴史 遠藤比呂誌 1学年主任:川端恵理子 2学年主任:天羽 善久 3学年主任:仙田 継治 研修主任:三栖 千晶

校長

住友 久之

#### 【各校の取組状況の把握について】

授業参観や職員アンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒が多い。漢字・計算・英単語など毎日の課題にまじめに取り組める生徒がほとんどである。 ●一問一答形式に比べ、記述式問題を苦手とする生徒の割合が高い。長い文章を正確に読み取ったり、既習の知識・技能を活用したりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能が定着している。 ・既習の基礎的・基本的な知識・技能を他の学習や生活の場面で活用することができる。	・反復練習や小テストを継続的に実施する。 ・文章を正確に読み取らせるために、重要な部分などにアンダーラインを引かせたり、丸で囲ませたりする。 ・既習の知識と関連付けたり、組み合わせたりするなど、学習内容の精選に努める。	・二者面談や三者面談を通して、家庭学習カウンセリングを実施し、個に応じた家庭学習の内容や取り組み方を示す。	・2月実施のアンケート調査で、92%の教員が「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている」と回答した。既習内容を「普段の生活の中で活用している」は65%で、目標値には至らなかった。 ・学校評価アンケートでは、83%の生徒が「学校は適切な量の宿題を出し、家庭学習が続くように指導している」と肯定的な回答をした。家庭学習時間調査では、1時間程度の生徒が最も多く、宿題以外の学習の仕方を工夫させることが課題である。	・朝学習や宿題で小ステップの学習を積み重ね、繰り返し学習する習慣を身に付けさせる。 ・定期的に学習実態調査を行い、生徒に家庭学習時間を振り返らせる。 ・各教科のポイントを示した「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配布する。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○少人数であれば、話し合いや発表を通じて自分の考えを表現できる生徒が多い。他の生徒の意見をしっかりと聞くことができる。 ●クラス全体など大きな集団の中で発表することに苦手意識をもっている生徒は少ない。目的や課題に応じて必要な情報を整理してまとめたり、自分の考えを書いたりすることに課題がある。	・目的や課題に応じて必要な情報を選択・収集し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、書いたりして表現することができる。 ・自分の考えを明確にもち、他者と伝え合う活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりできる。	・図書や1人1台端末を活用して必要な情報を選択・収集し、言語化してまとめる学習の場面を設定する。 ・ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、根拠をもって自分の考えを伝える機会を増やす。他者の意見を聞き、自分の意見と比較する交流活動の場面を設定する。	・県学力向上確認プリントを活用し、思考力や表現力を養う。 ・生徒同士で学んだことを教え合う場面を設定する。	・2月実施のアンケート調査で、89%の教員が「自分の考えをまとめることができている」と回答した。一方、「目的に応じて必要な情報を収集できている」は69%にとどまった。 ・2月実施のアンケート調査では、ペア学習やグループ学習を肯定的に捉えている生徒の割合は92%と高かった。友達と意見を交流することで、考えを広げることができたという感想が多く聞かれた。	・図書や1人1台端末を活用して必要な情報を選択・収集し、言語化してまとめる学習の場面を増やす。 ・ペア学習やグループ学習を全教科で取り入れ、考えを共有したり、生徒同士で教え合ったりする場面を設定する。 ・学校図書館や市立図書館の貸し出し図書の利用を呼びかける。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を守り、一生懸命授業に取り組むことができる生徒が多い。家庭学習に取り組む、与えられた課題を期限までに仕上げようとしている。 ●自分で目標を設定したり、課題解決に向けて自分で考えて学習に取り組んだりすることが苦手である。難しいことにも失敗を恐れないで挑戦することに課題がある。	・学習状況を振り返り、自分で課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に学習に取り組むことができる。 ・難しいことにも粘り強く挑戦することで、学ぶことの楽しさや課題を解決した達成感を味わい、次の目標設定につなげることができる。	・「今日のゴール・まとめ」カードを活用して生徒に学習の見通しをもたせたり、学習成果を実感できるように振り返りの場を工夫したりして、達成感を味わわせる。 ・各種検定に挑戦することの意義を伝える。 ・小さな成功体験を積み重ねる場を増やす。教員の肯定的な声かけを通して、自信を深めさせる。	・1人1台端末を活用し、探究的な学習の場面を設定する。 ・教員間で授業構想やアイデアを共有する。	・英語検定、漢字検定、数学検定に延べ180名が挑戦した。自分で目標を設定し、自主的に学習するきっかけとなった。 ・他者紹介文やクイズの作成、振り返りの場面など、1人1台端末の活用が広がっている。 ・校内オープンクラスを10月30日～11月17日に設定し、全教員が他教員の授業を参観した。振り返りシートを用いて質問や助言を行い、以後の授業づくりに生かした。	・各種検定の挑戦等、自ら目標を設定して粘り強く課題に取り組むことができる生徒を育成する。 ・1人1台端末の効果的な活用方法を模索する。 ・校内研修等を通して、教員間で授業構想やアイデアを共有し、生徒が主体的に学べる授業づくりに努める。

#### 令和5年度 学力向上ロードマップ

